

運用状況に着目してこんな声かけを行おう

1 投資信託取引残高報告書が届いたのを見計らって…
 定期的にお送りしている
 報告書の見方はお分かりですか？
 ご不明点についてご説明しますよ



取 引残高報告書は、四半期
 に一度以上、取引がない
 場合でも1年に一度以上お客様
 のもとに送付されるが、見方が
 分からずにはたらかしにして
 いるお客様も少なくない。
 そこで、取引残高報告書が届
 いたタイミングで「定期的にお
 送りしている報告書の見方はお
 分かりですか？」と声をかけて
 みよう。「気になっていたんだ
 が、どこを見ればいいのか分
 らなくて」などの反応があれ
 ば、お客様とともに、それぞ
 れの項目に表示されている内容を
 確認していくとよいだろう。

産のポートフォリオを再確認す
 ることを提案したい。
 その際は「運用成績の約8割
 は資産配分で決まるといわれ
 ています」などと話を展開して、
 お客様のポートフォリオを一緒
 に確認するとよいだろう。

ポートフォリオの再確認も
 それができたら次に、保有資
 産のポートフォリオを再確認す
 ることを提案したい。
 その際は「運用成績の約8割
 は資産配分で決まるといわれ
 ています」などと話を展開して、
 お客様のポートフォリオを一緒
 に確認するとよいだろう。
 具体的には、商品ごとに投資
 対象の資産クラスを確認して
 く。資産クラスの分け方には
 様々あるが、まずは国内株式、
 国内債券、海外株式、海外債券
 の大きく4つに分類してみる。
 最適な資産配分は運用の目的
 やお客様の年齢などによって異
 なるが、市場の平均的なリター
 ンを狙うなら、4つの資産に4
 分の1ずつ配分するのも1つの
 方法だ。バランスが偏っている

こんなトークでアプローチ

定期的にお送りしている投資信託取引残高報告書について、ご不明な点はありませんか？

いつも気にはなっていたんだけど、どこを見ればいいのかよく分からなくてね…

では見方をご説明しますので、一緒に確認してみませんか

そうですね。よく見たほうがいいポイントが分かれば助かるわ

時間がありませんでしたら、資産配分のバランスについても、改めて確認してみましょう。「運用成績の約8割は資産配分で決まる」ともいわれているんですよ

2 特別分配金が支払われているのを見て…
 特別分配金をご存じですか？
 投資効率が下がってしまいますよ



投 資信託の分配金には「普通
 分配金」と「特別分配
 金」がある。普通分配金は運用
 益から支払われるものだが、特
 別分配金は元本を取り崩して支
 払われる。
 毎月分配型の投資信託は、安
 定的に分配金を受け取れること
 から人気が高いが、高い分配金
 を維持するために特別分配金を
 支払うケースも多い。お客様に
 とっては、自分の資金を分配金
 として受け取る形なので税金は
 かからないが、投資元本が目減
 りしてしまうというデメリット
 がある。

確認してもらうことが重要にな
 る。
分配金健全度をチェック
 そのうえで、「分配金健全
 度」が高い投資信託への乗換え
 を提案するのが有効だろう。
 分配金健全度とは、分配金の
 うち運用益がどのくらいを占め
 ているかを示すもので、数値が
 高いほど元本を取り崩す割合が
 少ないことを示す。分配金健全
 度が100%であれば、すべて
 運用益から支払われていること
 を意味する。

まずは「特別分配金をご存じ
 ですか」などと声かけをして、
 この仕組みについてしっかりと

も、分配金自体が少なくても意
 味がない。そこで新聞などで
 は、分配金利回りが高く、かつ

分配金健全度の高い投資信託の
 ランキングを掲載することも多
 くなっている。
 最近の傾向としては、海外R
 EITや海外の高配当株に投資
 するファンドが上位になること
 が増えている。こうした投資信
 託に乗り換えることで、元本の
 目減りを防ぐことができる。
 ただ、この状況は永遠に続く
 ものではない。運用環境が変わ
 れば得られる利益も変化する。
 担当者としては、「保有してい
 る投資信託の分配金の中身を定
 期的にチェックしたうえで、そ
 の時々運用環境に合った商品
 に組み換えていくことが重要で
 すよ」と話を展開するとよいだ
 ろう。

こんなトークでアプローチ

分配型ファンドを保有されていますが、特別分配金についてはご存じですか？

最初に説明してもらったけど、正直よく分かっていないわ…

特別分配金とは、元本を取り崩して支払われる分配金のことです。これが高いと、投資効率が下がってしまいます

あら、そうだったのね。元本が少なくなってしまうのは悲しいわ

元本の目減りを防ぐには、「分配金健全度」が高い投資信託への乗換えを検討してみるのも1つの方法ですよ